



# 日野稲門会

# かわら版

## 創刊号

日野稲門会事務局  
日野市南平 1-34-11-402  
生川方 ☎042-593-7290  
編集責任者:五十嵐 耕一

### 会長ごあいさつ

## 念願のかわら版



日野稲門会会長 小笠原 豊 (昭40・政経)

この度の「かわら版」発行に会員の皆様には多大なるご支援、ご協力を頂き有難うございました。お陰様で長年の夢でありました「かわら版」が現実のものになりました。「かわら版」は会員の力と信頼の上で育てて行きたいと考えています。従来の印刷業者への編集依頼を取り止めて、自前でIT技術編集に切り替える発想への転換を行いました。その為、コストが大幅に抑えられ、さらにカラー化を実現し、今後はタイムリーで必要と思われる最新情報をお届け出来そうです。

さて、コロナ禍で稲門会のイベント、同好会活動の中止は会員や役員が分散され易く、ちょっぴり喪失感ある中「かわら版」が意識的に稲門会のコミュニティ強化が図られる要因となれば良いと考えます。会員の持つ様々な貴重な体験をご執筆頂き「体験広場」のツールとして、新たなつながりの機会が造られる事を期待しております。先の会員へのアンケート調査でも「かわら版」に80%以上の方が読みたいと回答しています。若き新編集長を中心とした4人の編集委員も熱が入ります。このコロナ禍の時、“朝の来ない夜はない”の思いで編集作業は続いています。

## イベント案内 第22回 秋の収穫祭(芋掘り)の開催について

日野稲門会唯一家族ぐるみのイベントとして開催します。

コロナ禍で会員の皆様の中には、外出を極端に避けてこもりがちな、人も多いでしょう。

そこで、一日だけ日常を変えて、気分転換してみませんか。美味しいサトイモ、甘い紅春香のサツマイモ、目いっぱい掘ったり、抜いたりして遊びませんか。大人も、子供たちも、汗まみれ、泥まみれで大笑いしましょう。初参加の会員には粗品を進呈します。皆さまのご参加お待ちしております。

今回は新型コロナウイルス感染予防で二部制にして農耕接触を避ける予定です。

＝＝＝＝＝＝＝＝

日時 10月24日(土) <1部>午前10時～  
<2部>午後1時～

場所 実践女子短大グランド横の農地(ファミリーマート近く)  
参加費 300円(1家庭)

問い合わせ先 杉本 武彦 583-6101



### contents

- ・会長ごあいさつ……………1
- ・イベント案内「秋の収穫祭」……………1
- ・会員からのメッセージ……………2~6
- ・「つなぐ・オピニオン」予告、編集後記……………6

## 会員からのメッセージ

### コロナ騒動とステイホーム

山内 治男(昭35・教育)

このところ、テレビを見る機会が多くなっていますが、朝から晩までコロナ・コロナです。外出自粛が続いていますから、ほとんどの人は我慢も限界です。私は戦前生まれで、戦争と敗戦後の生活を経験しています。食べるもの、着るものなど全くない時代を体験していますから、危機対応力は強いと思います。こんな時ですから、嘆いても仕方ありません。平均寿命を超え、折角長生きをしてきたのに、コロナでコロリと死にたくはない。もうしばらく我慢、と言い聞かせています。



今毎朝のストレッチ運動、退職してから始めた朝食作り、週6回も楽しんでいた社交ダンスが出来なくなったので、急遽ゴルフのアプローチ・パターそしてウオーキングを日課に取り入れました。思わぬ効果があったのは、老前整理(終活)が進んだことです。数々の思い出の詰まった品々も、子供たちにとっては、単なるゴミにすぎませんから…。

もう一つ特記事項。このところ、旅行、外食、ダンスと飲み会、遊びの会費なしで、お金がかかりませんでした。逆にコロナ太りが玉に瑕です。皆さんもこの機会に、今までできなかったことに挑戦してみても如何ですか。

### 川崎富作先生との思い出

阪本 昭夫(昭37・教育)

今年5月、新型コロナに感染した子どもに、「川崎病」と似た症状が見られたという報道を目にした。それから間もなく、その川崎病の発見者・川崎富作先生が、6月5日95歳で亡くなったというニュースが伝えられた。

私は昭和50年ごろ、小学館書籍編集部勤務し、「育児書」の編集をしていた。当時、日赤医療センターの小児科部長であった川崎富作先生に原稿執筆や監修でお世話になった。先生との仕事で、今でも印象に残っていることは、赤ちゃんのウンチの撮影に協力していただいたことだ。赤ちゃんの



健康状態を知るには、便を観察することが大切とのこと。そこで育児書の中に、便のカラー写真を載せて、見分け方のページを設けることにした。川崎先生の診療待合室で、カメラマンとともに待機。そこでウンチを漏らした赤ちゃんのおむつから30人ほどの便を撮影した。

その写真の中の1枚に、真っ白な便が写っているものがあつた。それを見た川崎先生は、「これは胆道に重い疾患のある便で、この赤ちゃんは、撮影後数日して亡くなりました」と言われた。その時の無念そうな先生の表情を鮮明に覚えている。育児書の編集で、先生と過ごした中でも忘れがたい出来事であった。

### コロナ自粛の果実

野尻 明美(昭38・工研修)

肺がんのサバイバー(生き残り)としての終末期高齢者にとって、新型コロナには戦争中の空襲警報より陰気で長く恐ろしい自粛生活を強いられている。日野市団塊の世代主催の2時間にわたる震災防災の講話をはじめ全てのスケジュールは一斉にキャンセル。予定表は真っ白。止む無く拙ブログ(<https://ameblo.jp/murasaki11haru/>)連載中の「地震発生メカニズム」ほか地震防災関連の持論を整理・補筆して小冊子へまとめる準備で暇つぶしが始まった。

前回の肺がん自粛では「立川断層本当にあるのか? 答えはNO」を作成公開。現在ほとんど立川断層の話は消えている。今回のコロナ自粛ではこの50年間震度1以上の地震が全く記録されていない「南海トラフ地震本当に起きるのか? 答えはNO」

あるいは水の山といわれる霊峰富士に温泉がないということで「富士山の噴火は本当に起きる



長尾峠より富士山と宝永火山

## 会員からのメッセージ

のか？ 答えはNO」などを小冊子に取りまとめ地震学会、火山学会へ挑戦中。

今後は持論の地震発生のメカニズムが、正しければ「地震予知は可能」であるはずと地震国日本の国際貢献の一助となればと準備を始めた。「進取の精神 学の独立」は傘寿を超えて残りの人生ますます盛んです。

### 早稲田と私と文学と

小早川 博子(昭49・文学)

私は昭和49年に早稲田大学の第二文学部文芸科を卒業しました。その頃は学園紛争もだいぶ下火になり静かに授業をうけられました。第二文学部の文芸科はアウトサイダー気取りの人や個性豊かというか芸術家気取りというか、そんな人の中にも真面目に勉強している人もいました。今思い出すと懐かしく面白かった学生生活でした。先生たちもざっくばらんで個人的な雑談を交えた授業は面白かったです。

私は、というと今でも親交のある久子さんと真面目に授業に出ていました。久子さんは卒業後、中学の国語の先生をして三人の子供達を育て上げ、今は定年退職をしてヒマラヤ登頂した程の登山家で、山の絵を描き短歌も同人誌に発表しています。彼女の夫はというと同じクラスメートでしたが、授業にも出ず映画を仲間と作っていました。ちゃらんぼらんの学生でしたが留年に次ぐ留年の後やはり中学の国語の先生になり校長先生になり定年退職をしました。あんなに自由人だった人が、ガチガチの管理職になってしまいました。

あの頃の私達は文学を通して色々な夢を持ち、なぜか自分に自信を持っていました。しかし社会の厳しい枠組のなかにはめ込まれてなんとか生き延びて今があるのかなー、と思います。そして私の

一番の同志であり親友である文学が今でもそばに居てくれています。

### 蘇民将来とコロナウイルス

西海 英雄(昭47・工研博)

2月末に外国人対象のお茶の実習会が中止になってから、コロナ禍による行事の、あるいは習い事がすべて中止になった。

疫病は古来人々に恐れられ、疫病神(やくびょうがみ)などと忌み嫌われてきた蘇民将来というお守りをご存知でしょうか？

備後風土記によると(抄出)、

昔、北の海にいまし武塔(むたふ)の神、南の海の神の女子をよばひに出でましに、日暮れぬ。その所に蘇民将来二人ありき。兄の蘇民将来は貧しかったが、粟飯等をもちて饗(あ)へ奉りき。そののち、八柱の子を率て還り来て詔りたまひしく、「我、奉りし報答(むくい)せむ。汝(いまし)が子孫(うみのこ)その家にありや」と問ひ給ひき。蘇民将来答へて申ししく、「己が女子と斯の婦と侍り」と申しき。即ち詔たまひしく、「茅の輪をもちて、腰の上に着けしめよ」とのりたまひき。詔の隨(まにま)に着けしむるに、即夜(そのよ)に蘇民と女子一人を置きて、皆悉にころしほろぼしてき。即ち詔りたまひしく、「吾は速須佐雄(はやすさのを)の神なり。後の世に疾気(えやみ)あらば、汝、蘇民将来の子孫と云ひて、茅の輪を以ちて腰に着けたる人は免れなむ」と詔りたまひき。

これは、疫病の恐ろしさを表しているが、木を六角形、あるいは八角形に刻んだ蘇民将来のお守りを現在も頒布している。写真は、上田国分寺の蘇民将来である。入間の竹寺が関東では蘇民将来を守る寺である。大本は、京都八坂神社、あるいは愛知津島神社と思われる。「あまびえ」が注目を浴びているが、古代人にとって疫病はそんなかわいいものではなく、恐ろしい神であった。



左が筆者  
久子さんと早稲田アリーナ新築の内覧会にて



## 会員からのメッセージ

興味のある方は、

[http://platform.nishilab.jp/SominAndKodaiHistory/somin\\_HP/somin-kakuron.html](http://platform.nishilab.jp/SominAndKodaiHistory/somin_HP/somin-kakuron.html)  
をご覧ください

### コロナと子ども食堂

小林 知子(昭57・文学)

夫は、さいたま市で小さな教会の牧師をしている。昨年秋、あるNPOのAさんという女性から、ひと月に一回「子ども食堂」を行いたいのので会場として教会を使わせてもらえないか、という申し出があった。Aさんは、成長期の子どもがいる、様々な事情を抱えた家庭の支援を行っている。夫は、少しでも教会が地域のお役に立つのなら、と快諾した。子ども食堂の段取りはすべてAさんやスタッフの方が行き、私たち夫婦も、集まった子どもたちとおしゃべりしつつ食事をとにした。保育園児から高校生まで、最近あまり縁がなくなっていた年齢層と触れ合える楽しいひとときだった。



ところがコロナである。会食どころではない。せっかく軌道に乗ったのに！そこでAさんが考えたのはテイクアウト方式。教会で調理しパックなどに詰めて持ち帰りができるようにし、とりにきた子や親に渡していくのである。

コロナであれもこれもできない、仕方ない・・とあきらめるのは簡単である。そういう状況の中でも、Aさんのように「だれかのために、何ができるか」を考え行動する人たちがいる。そういう人たちに、私も力をもらっている。

### コロナ危機で思うこと

高橋 治行(昭46・理工)

今回のコロナ危機を通じて本当に色々と考えさせられることがありました。

特に我が国の問題点が嫌というほど浮き彫りに



なりました。危機対応が出来ない政治家、官僚、法制度。ロジックや国民の常識が通用しない政策決定と不透明性。問題の先取りや将来を見据えた戦略の無さ。考えてみると、得票目当ての上滑りした政治家の言葉と未達成のまま消えるか先送りする政治文化です。その結果 分かりやすい例では IT後進国 低生産性国家 女性活躍後進国 実効の上がらない少子化対策 研究開発分野人材の減少対策(9月新学期構想を含む) 構想消滅など。こんなガラパゴス政治で何とかやって来られたのは幸運としか言いようがありません。

今回の緊急時に、問題点や政治家としてのリーダーシップが浮き彫りになったのは成果かも知れませんが、どうすれば良いのか、我々にも責任が有るのですね。

自分自身について発見した問題点=趣味は沢山有ると自認していたのに、いざ外出が全く出来ないとなると、暇を持て余してしまった事。

良かった事=今までやらなかった料理に挑戦できた事。

皆さんにとってのコロナはいかがでしょうか。

### テニス同好会と私

鈴木 延幸(昭43・教育)

日野稲門会に入会して15年余りになりますが、杉並区に引っ越してから7年ほどは区域外の会員としてテニス同好会と日野荒ぶる会で変わらずお世話になっており感謝申し上げます。

お陰様で杉並稲門会でもテニス部に所属し現在はコロナで自粛中ですがメンバーの皆さんと毎週テニスを楽しんでおります。そもそも小生のテニスは、66歳の時にゴルフ以外に運動量があり今から始められるスポーツをと模索していたところ、残念ながら故人となられました斉藤靖雄さんにお誘い頂き、日野稲門会のテニス同好会に入れて頂いたのが始まりです。当時ラケットの握り方も満足に出来ていない初心者の私に小笠原会長はじめメンバーの皆さんが嫌な顔もせず温かくかつ厳しくご指導頂いたお陰で現在も楽しませて頂いていることを本当にありがたく思います。



## 会員からのメッセージ

相変わらず下手なテニスですが月に1度の参加を目標に緑豊かな多摩平のテニスコートで日野稲門会の皆様とゲームを楽しませて頂きたいと思っておりますので今後ともよろしくお願い致します。

### 日野稲門スキー同好会と私

高橋 敏夫 (昭40・理工)

現在、稲門会内では新型コロナウイルスによる行動自粛で各同好会活動が停滞し、会として残念な状態が続いている。

同好会といえば、稲門会スキー同好会は以下のようにして生まれた。7年くらい前になるが、ゴルフ等既存の同好会は会員の年齢層が高くなり、参加者が減ってきてなんとかかせねばということになった。

そこで、役員会では、「新規の同好会を立ち上げ、会全体を再活性化させよう」との意見となり、各役員が知恵を絞った。次の役員会で「スキー同好会立ち上げ」を諮ったところ幸い承認されたので、スキー好きの石坂松男氏(S30・商)、永山肇氏(S40・理工)、小田毘古氏(S43・商)、それに高橋が发起人となり同好会を立ち上げた。

早速、第1回の実施に向けて準備を始めた。すると、永山氏の会社の保養所が白馬・八方尾根にあり、これを利用できることがわかった。また、小田氏は奥志賀高原にあるB&Bホテルのオーナーであることもわかり、スキーヤーにとっては本州の2大人気スキー場である白馬と志賀高原(両方とも長野オリンピックの会場)を滑れることになった。



そして、第1回は2015年2月に白馬・八方尾根で、第2回は翌3月に志賀高原で開催した。それから毎年スキー旅行を実施し、今年も1月、若い五十嵐耕一氏(S51・政経)も初参加して7人で志賀高原スキ

ーツアーを楽しんだ。

この時は無事行われたが、次の月から現在のコロナ行動自粛になるとは想像もしなかった。

### 千ミリの豪雨で川が「津波」に

佐藤 洋(昭60・政経)

10年ほど前に仕事で、熊本県の人吉地域のみなさんにお世話になったことがありました。人吉は盆地で、球磨川が風情豊かに流れていました。それが今年7月の豪雨で、暴れ川の本性をむき出しに、人吉市の街並みを襲ったのには度肝をぬかれました。(写真) 地元の方は、「あれは川じゃない。背丈より高い『津波』がやってきて、家を持って行った。残ったのは土台だけ。雨が1000ミリも降っては堪られない」と恐怖を語っていました。



球磨川の氾濫 人吉市 (海上保安庁)

気象の解説によると、積乱雲が次々と生まれ、長さ50~300kmで、複数並んで幅20~50kmをなすという「線状降水帯」が発生したとのこと。梅雨に限らず他の季節でも、そしてどこでも起きる可能性があるのですが、まだ発生を予測するのは困難だそうです。

新型コロナウイルスのもとで、救援・復旧はさぞかし大変だろうと思っていたところに、7月末には私の故郷の山形県でも、最上川が氾濫しました。これで日本の「三大急流」と呼ばれる暴れ川のうち、球磨川と最上川が氾濫したことになります(残りは富士川)。温暖化の悪影響が話題となっていますが、子や孫がどんな苦勞をするだろうと思わず考えてしまいました。

## 会員からのメッセージ

### 日野稲門会と講談と私

河津 光紀(琴道) (昭33・政経)

「時、元禄十五年極月十四日、会稽山に越王が恥辱を雪ぐ大石の山と川との合言葉、仇討本懐成遂げて引揚来る三人目、身に山菱の火事装束、地黒の袴纏だんだら筋、金星乱鋳打ったる綴頭巾ナ後ろに投げ、襟に印は赤垣源蔵重賢の六ツの文字」ご存じ「赤垣源蔵徳利の別れ」の一節。

十五、六年前、森田元会長のご命令で総会の日に講談拙演。実はその前年にも「柳生二蓋笠」という武芸物を拙演し

たので、二年連続は僭越とご辞退したら森田さん曰く「早稲田は一年で卒業出来る程甘くない。徳利の別れをやれ」とのご下命。然し、そのお蔭



で皆様方との交流も深まり、暮やテニス、ゴルフにも気軽に参加できるようになりました。

講談の由来は、一説には徳川家康が、好んで源平盛衰記などの軍談を講義読釈(講釈)させ、これに諸大名や武士達が倣い、聽て庶民の間に広まったとも云われています。昔の政治家は私邸や宴席に講談師を招き、先人達の事績や言行に学んで、自らを啓発するよすがとしました。

講談は娯楽であって史実そのものではないが、先人達の生き方に直に接して、自然のうちに民族共有の美意識や倫理観、義理人情等を培ってきました。「面白くてタメになる」会報かわら版と講談に乾杯。

### 花とともに過ごす日々

秋田 叔彦 (昭52・法学)

1月に始まったコロナ感染騒動も、早7か月が経過しましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私は長野県に生まれ、子供の頃を長野県で過ごしたためか、自然に触れていることになにより心の安らぎを覚えます。日野市も、昭和48年に都内から引っ越してきた頃は自然豊かで、隣の林で

コジュケイが鳴き庭にはウグイスやメジロが沢山やってきて囀っていました。都内からこちらに来て日当たりの良い庭が出来、このころから花の栽培を楽しみ始めました。もう50年近くやっていることになります。

四季折々、様々な花が咲きそこへ蝶々が舞ってきたり色々な昆虫が集まってきたり、実がなると小鳥たちがやってきます。通りがかりの人やご近所とも、花を



通じて話をしたり…。花が中心になって、様々な世界を繋いでくれます。植物はしゃべりません。一年中、様子を見て何をしてほしいのかを考えながら世話をします。毎日の水やり、草取り、施肥、剪定、植替え等々。お陰様で、自粛も大して気にならず、一日の半分以上を花とともに過ごすことができ、花に感謝する毎日です。

(写真は苔玉で作ったヤマアジサイ)

### つなぐ・オピニオン

あなたのご意見が「かわら版」を育てていきます。2号より「つなぐ・オピニオン」のページ開設を考えております。創刊号の感想やあなたの考える「かわら版」内容を肌感覚でお聞かせください。原稿は3~400字、メールまたは手紙で編集部まで。粗品進呈します!

- ・メール: [hinotomonkai.kouhou@gmail.com](mailto:hinotomonkai.kouhou@gmail.com)
- ・郵送先: 〒191-0053 日野市豊田 3-1-2 五十嵐耕一

### 編集後記

★今年度の会報担当着任早々、会長から“念願のかわら版”を発行するぞとご下命あり。創刊号発行にあたり日野稲門会の上村会長にはDIY編集ノウハウや格安印刷業者など丁寧にアドバイスをいただき、背中を押していただきました。ご協力いただいた皆様にあらかじめ感謝申し上げます。★佐藤洋様の寄稿文のとおり、今年も豪雨により球磨川をはじめ各地の氾濫で多くの方々の方が亡くなり、多大な被害が発生しました。全国で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

かわら版編集長: 五十嵐 耕一(会報担当)

編集委員: 小笠原 豊、京極 英二、宮本 誠二